

市民協MMニュース 2011年7月20日号 (NO.13)

NPO 法人市民福祉団体全国協議会 Tel 03-6809-1091 fax 1093



★日本の社会保障制度をどうするか? 講師:高木郁朗7/23

★被災地復興支援:情報

★今後の仮設の展開

★エピソード:T子さんの教え

ウィラブ北茨城 高松理事長

★お知らせ

★《記者の目》

ジャーナリスト 浅川 澄一



市民協・宮城会員会議の開催 8月1日

13時から16時、福祉プラザ第4研修室にて

<http://www.shakyo-sendai.or.jp/fukushi/>

次回 パラソル喫茶 8月7日

集合場所 東松島市 ひびき工業団地仮設住宅 8月7日 午後2時集合
夏祭り:ビールパーティをします。

日本の社会保障制度をどうするか? 講師:高木郁朗

(「芝公園・梁山泊」)7月23日15時30分 於いて 日本女子会館5階大会議室
7/23(土) 第10回芝公園・梁山泊セミナー(高木郁朗・日本女子大学名誉教授氏)を開催します。ぜひ、ご参加ください。

日時:2011年7月23日(土) 3時30分~5時

(セミナーと参加者による梁山泊的議論)

※5時から交流懇親会(ワイン、ビール、軽食で懇親・交流)

セミナー参加費 1000円 +交流会1000円

場所:日本女子会館5階 大会議室

講師:高木郁朗 氏 (日本女子大学名誉教授)

日本の社会保障論の第一人者として、「税と社会保障の一体改革」を巡る現在の社会保障制度改革の議論を整理し、現時点での改革案を中心に、参加者と議論します。

被災地復興支援:情報

7月7日ささえ愛山元にエステ隊が来ました。13時から16時まで、仮設の方たちをささえ愛のスタッフが送迎をして(もともと、ささえ愛は移送が得意ですから、、、、)

エステ隊施術者23名、御利用者は20歳から80歳台まで43名でした。

最初の予定では、平均年齢が70歳代だったのに、ふたを開けたら娘さんやお嫁さんたちもたくさん来て、平均年齢が下がったとのこと。混まないように1時組と2時組に分けていたにも関わらず待合室は座る場所がなくなるほどごった返し、しかも、テレビ取材が2局も来て7日の夕と8日の朝、何度も放送されてあっちこっちから電話がかかってきたとのこと。エステと、ネイルとお化粧までしてもらった人もいました。

「指まできれいにしてもらったから、今日は外食にするの」

「きれいになったねと無口なご主人が言ってくれたの」と報告があったそうです。

「津波以来皆が一番喜んだの」「こんな皆の顔久し振り」「ほんとに来てもらって良かった」と中村理事長さんも喜んでいました。

このエステ隊は今回が初めてとのことで、やるなら質の高いものをと、前日から部屋の準備をして臨んでくれました。

どんな業界も工夫してボランティアして欲しいと思いました。

仙台事務所コーディネイター 近藤明美

今後の仮設支援の展開

仙台事務所コーディネイター：近藤明美さんからの報告

14日から名古屋の村居さん（介護サービスさくら理事長）がきていました。15日には、「ささえ愛山元」のパラソルに参加してもらいました。村居さんは、元喫茶店のママで、その淹れるコーヒーは大好評でした。村居さんは、「パラソルっていいね〜」また来てくれるそうです。

10日から12日まで、ぐるーぷ藤の鷲尾理事長さん（神奈川県藤沢市）がきていました。「ささえ愛山元」、「すみちゃんの家」を訪問しました。

11日には、戸袋さん（WAC 沖縄、さわやか福祉財団インストラクター）の友人で山元町の民生委員をしている坂本さんという方の住んでいる仮設にひまわりの種を持って行くことにしていました。

移植べらとプランターと土も持って行こうと思ひ、互理の種屋さんで買うと話したら「ぐるーぷ藤」が購入してくれました。更に、ささえ愛のスタッフと自転車の件を話していました。「5台ライオンズ倶楽部からもらってすぐ配った」でも欲しい人はもっという、.....。



『人を送るのも、「ぐるーぷ藤」で経費を負担しているのだから必要な物資がみえるのだから自転車を送るのでもいいね。会議に諮ります。』と帰っていきました。

そうしたら、なんと20台もの自転車を寄付してくれることになりました。なるべく地元にお金を落としてもらいたいの、山元の自転車屋さん交渉してみます。20台の内何台かでも地元にお金を落としたいと思っています。



西田さん（たすけあい佐賀理事長）からも8月のパラソルに男性3人出すと連絡がありました。「パラソルは強いリーダーだけ参加」では上手くないし、楽しくないですよ、きっと。その他大勢のパワーが必要なんだと思います。

被災地になるべくよそのパワーを注入して元気になってもらいたいと思っています。

エピソード：T子さんの教え

ウィラブ北茨城 高松理事長

ある日のサービス送迎中のスタッフA子との会話

A子『T子さん、サービスに来る日をカレンダーにつけようと思ったのだけれど、高いところにあるので届かなかったよ』

T子『んだっぺ！私も届かねよ』

A子『なんで、わざわざ手が届かないところにカレンダー貼ってるの？』

T子『オレ、何十年も一人暮らしだっぺ？もともと横着な性分だもんで、なんでも身近に置いとくと、身体がなまって自分が困ることになっちゃうべ？だから、わざと手が届きにくいところサ、毎日使うもんを置くようにしてんだよ・・・』

A子『あぁそうか！だから少し目が不自由でも一人暮らしが出来んだね』

T子『んだ！おめ（お前）もいつまでも若くねえんだから、工夫して生きろ！』

T子さん（93歳）は俗に言うところの、まだらボケである。

近所との良い関係の中で30年以上独居生活を続け、最近は何時の記憶が曖昧なこと、若干愚痴が多くなってきていること以外は、足腰はしっかりしていて家事など殆ど一人で行っている。

お知らせ

「第5回 シニアライフコーディネーター®養成講座」

受講者募集中！

あなたも高齢社会や地域で活動するシニアライフコーディネーターになりませんか？

高齢社会の課題を探り、自己実現できる活動を実践できる人を育てます。

行政や企業で仕事をする時、シニアの課題や実態を基礎から学べます。

こんな人に受講をお勧めします。

- ◆定年退職や子育て後、地域社会で羽ばたきたいと考えている人
- ◆地域社会ですでに活躍しているボランティア・リーダーの人
- ◆第二の人生で自分のキャリアを、何か社会に役立てたいと燃えている人
- ◆地域行政や企業でシニアに関わる仕事をしている人
- ◆災害ボランティアとして活動したいと考えている

【日 時】平成23年 9月17日、10月・1日・15日・29日、11月12日・26日

毎回土曜日 計6日間（各日とも9:30～16:30）

【会 場】明治薬科大学・剛堂会館（地下鉄「麴町」、JR「四谷」）

<http://www.nijou.jp/page002.html>

【受講料】 一般 30,000円

【後 援】東京商工会議所・日本応用老年学会・公益社団法人長寿社会文化協会・

NPO法人 NPO 事業サポートセンター・NPO法人全国生涯学習まちづくり協会

【資格認定】講座全履修者は、「シニアライフコーディネーター」として、当協会より認定・登録され、「認定証」が授与されます。

【定員】60名（定員先着順）

【受講申込み期限】8月末日迄

【日程・カリキュラム】

9月17日

- ・基調講演 シニアライフコーディネーターのニーズとシーズ
（長寿社会文化協会常務理事 田中尚輝）
 - ・シニアマーケットとコーディネーターの役割
 - ・ひとり暮らしの生き方

10月1日

- ・シニアに優しい共用品とは
- ・シニアの賢い経済
- ・傾聴と相談の心得

- 10月15日 ・NPO・NGO にみる社会貢献
 - ・高齢社会とジェロントロジー
 - ・シニア期の間人間関係[グループ討議と自己紹介]
- 10月29日 ・医療保険と介護保険
 - ・相続・遺言と成年後見制度
 - ・老いを生きること認知症を生きること
- 11月12日 ・市民自治を理念とした地域社会の創造
 - ・サクセスフルエイジングを目指して
 - ・フォーラム 地域活動の事例
- 11月26日 ・まちづくりコーディネーターの仕事
 - ・シニアライフコーディネーターに期待すること
 - ・ワークショップ「あなたは今後どんな活動がしたいですか」

【問い合わせ・資料請求先】

NPO法人 関東シニアライフアドバイザー協会 事務局

Tel:03-3495-4283 Fax:03-3495-4342

(事務局開設時間・通常11:00～15:00)

E-mail: info@kanto-sla.com <http://kanto-sla.com>

〒153-0063 東京都目黒区目黒2-10-5-101

マイアイヘルプユー自主勉強会のお知らせ

今回の勉強会の講師は会員の市川和男さんと山田道子さん、また、震災当時に釜石市役所職員で、現在は市内の特養「あいぜんの里」の施設長になられている会員の古川明良さんです。マイアイヘルプユーとしては、当日の参加費を3,000円以上とし、それを支援金として直接古川さんにお渡ししたいと考えております。多数の皆様にお聞きいただきたい内容です。たくさんの方々の参加をお待ちしています。

記

開催日時:2011年7月26日(火)午後6時30分～

場 所:マイアイヘルプユー事務所

テ ー マ:市川和男氏「東日本大震災の避難先の状況と今後の課題」
 山田道子氏「保育園における事故予防・安全対策(震災・感染症を含む)」
 古川明良氏「行政の職員として大震災を体験して」

参加費:3,000円以上(古川さんへの支援金としてお渡しいたします)

※ 参加申し込みは、7月25日(月)までに事務局までお願いいたします。

NPO法人 マイアイヘルプユー

meiai@smile.ocn.ne.jp

電話:03-3494-9033・FAX:03-3494-9032

《記者の目》

ジャーナリスト 浅川 澄一

サービス付き高齢者向け住宅を終の棲家に

ケア付き住宅の本命がやっと登場する。内部ケア付きの特養、老健、グループホーム、ケア付き有料老人ホーム(特定施設)などが将来的に消滅し、外部ケア付きの住宅に集約される第一歩を踏み出すことになる。

高齢者居住安定法による「サービス付き高齢者向け住宅」(サ高住)のことである。10月末から都道府県、政令市、中核市で登録される。現在の適合高専賃に、見守りと生活相

談の二つのサービスを義務付けるのがサ高住で、300億円もの補助金が下りるとあって医療、福祉や住宅、不動産業にまで関心が高まっている。

だが、肝心のサ高住のあるべき姿が見えてこない。「サービス付き」のサービスとは、二つの基本サービスのほかに介護保険、医療保険のサービス、あるいは両制度から抜け落ちる生活支援のサービスをどのように組み込むことになるのだろうか。その前に、どのような心身レベルの高齢者を居住対象とするのかが問われている。

先行する高専賃の現状から、入居者は「介護保険の認定前の虚弱の自立者」「要支援や要介護度の軽度者」と説明されることが多い。確かに、高専賃の入居者の平均要介護度は1.804。33%は自立者で、要介護度4と5の人は9%に過ぎないというのが目の前の事実だ。もともと2つの基本サービスだけでもサ高住として登録できるのだから、重度者入居者を「拒否」して立ち上げようという事業者もいる。

先日開かれた全国特定施設事業者連絡協議会総会の場で挨拶に立った厚労省老健局高齢者支援課長も、「入居者の大半を軽度者と想定している」と話した。組み合わせる介護保険サービスは、例によって24時間の「定期巡回随時対応型訪問介護看護」を挙げ、「このサービスがすぐには普及しないかもしれないが、長期的視野に立って是非サ高住に取り組んでいただきたい」と発破をかけた。

特定施設事業者にとっては、サ高住が「脅威」となるという当事者の発言を受けての課長挨拶だから、違和感が残ったが、それほどまでに国がサ高住に意気込んでいる表れでもあった。

だが、その課長氏は続けて「長期的に住み続けるので、入居者の1～2割は重度者になりそうだ」とも言う。

果たして、短時間の訪問介護看護だけで重度者のケアを続けられるだろうか。その先の看取りまで行えるだろうか。そして、多くの認知症入居者に、1回あたり15分前後の訪問に過ぎない同サービスで十分対応できるだろうか。

60歳以上の高齢者が自宅を離れて求める住まいは、終の住まいでなければならない。自立や軽度要介護のうちはサ高住で暮らして、要介護度が高まってくれば、特養や特定施設など重度者向けの施設に移れというのは、高齢者にとってあまりにも過酷な仕組みである。

長年住み慣れた自宅からの転居は相当の心理的負担を伴う。それを2度、3度繰り返すようなことは避けねばならない。引っ越しは一回限りにしたい。

自宅からの転居先は、終生の住まいでなければならない。「高専賃は自立者や軽度者向け住宅」と当然のように発言する識者が多いのも困ったもので、その延長で「サ高住に重度者は向かない」とされてしまいかねない。

これでは、かつてのケアハウスと同じような失敗の再現となりかねない。一人での入浴や食事ができなくなると退去を迫られたのがケアハウスであった。

「ケアのないケアハウス」という指摘は正鵠を射ていた。介護者家族は、「ケアハウスに入ったら、次の施設を探さねば」という不安を抱えながら親を入居させねばならなかった。そんな話が広まれば、入居者が増えていかないのは当然だった。

そのため、各地のケアハウスは空き室が埋まらなかった。救世主は介護保険制度による特定施設の指定であった。これによってやっと重度者対応が実現できたという経緯がある。

サ高住が終の住まいとなるためには、重度者への対応を当初から想定したサービスを組み入れておくことだ。訪問介護やデイサービスだけでは重度者対応や、その先の看取りがきちんとできない。看取りには、訪問診療を手掛ける診療所と訪問看護ステーションは欠かせない。

そして、介護保険サービスでは、小規模多機能型居宅介護が最適といえるだろう。24時間のスタッフ対応が可能で、訪問や通いに滞在時間に制約がない。柔軟性に富み、融通無碍な介護サービスが提供される。この利点をフルに発揮させればどんなに重度になっても対応できるはずだ。

小規模多機能型を併設した高専賃の好事例はすでに各地にある。そこでは看取りも実現されている。

この3月時点で高専賃の登録室数は5万1000。有料老人ホームの約20万室にはまだ遠く及ばないが、国交省は2015年に20万室、2020年に60万室を計画している。つまり10年後には有料老人ホームを完全に抜いて、特養と匹敵するほどの壮大なプランを描いている。



**グランマリバーサイド立川
高齢者賃貸住宅入居者募集中です！！**

詳細はこちらから・・・・・・・・

<http://www.granma.jp/riverside-t/index.html>

★介護サービスさくら ★おもいやり支援センターくまの ★グリーンコープ ★
★たすけあい佐賀 ★全労済 ★宅老所を全国に広める会 ★
★一般社団法人 市民事業支援機構★